

小半夏加茯苓湯

金匱要略

組成	半夏 5～8, 生姜 1.5～3 (ヒネショウガ5～8), 茯苓 3～8
主治	胃気上逆, 痰飲嘔吐
効能	和胃降逆, 化痰滌飲

プロフィール

小半夏加茯苓湯は『金匱要略』痰飲病門が出典で、ここには三条の条文が記載され、いずれも心下に水飲が停滞して発症する病態を述べている。条文はいずれも「嘔吐」に用いられるように指示があり、現在でも妊娠嘔吐(悪阻)によく用いられている。本方に青皮を加えたものを虎翼飲と称し、また妊娠嘔吐の激しいときは伏竜肝(黄土)を加えて用いると良いとされている。なお、医療用漢方製剤はメーカーにより生薬の量が若干異なる。

方解

小半夏湯(生姜・半夏)に茯苓を加えた処方、心下の水飲を改善する処方である。半夏は、降逆止嘔と燥湿化痰の作用があり、生姜にも化痰降逆、止嘔作用がある。どちらも辛温で、胃に停滞している寒飲を除き、嘔気、嘔吐を沈め、心下部の痞えを治療する。茯苓は上逆する水気を下げると同時に脾胃を補益し、痰湿の生成を防ぐ。また心に帰経するので、水気による動悸を抑えることもできる。3種類とも同様の作用があり、協同して脾胃を補い、水を逐い上衝による嘔吐を抑えんと考えられる。

四診上の特徴

悪心、嘔吐を主訴とする際に使用される。体格、体質などにこだわらず、広く使用できる。大塚は「急に吐いて、みぞおちがつかえ、胸に水がたまっていて、めまいと動悸があるものに使う」と述べている¹⁾が、松田は「めまいと動悸がなくても急に吐き気が強くて吐く時に使う」としている²⁾。山田は「嘔吐は胃内停水によるものであり、腹診すると心下部に振水音を認められる。しかし、心下部振水音がはっきりしないことも少なくない。また、利尿減少、目眩、動悸などを伴うことも多く、口渴もある。」と述べ³⁾、矢数は「甚だしく衰弱せぬものによい。貧血や厥冷等の症候のないものに用いる。」としている⁴⁾。

使用上の注意

阪本は肺結核の患者が、急性胃腸炎で嘔吐と食欲不振がみ

られ、振水音もあったので本方を投与したところ、咯血したと報告している。半夏と生姜が温性のため、咯血を誘発した可能性を考察している⁵⁾。

臨床応用

1. 悪心・嘔吐

悪阻の治療薬として有名であるが、悪阻に限らず急性胃腸炎や悪性腫瘍の悪心・嘔吐にも使用される。浅田宗伯は『勿誤薬室方函口訣』の中で、「嘔家の聖薬である。水毒による嘔吐に極めて良い。」と述べている⁶⁾。エキスを溶解して八百屋で売っているヒネショウガの絞り汁を加え冷服するとより効果的であると言われており、その根拠は和田東郭の『蕉窓雑話』にある⁷⁾。江戸時代より、薬を内服すると吐き気がする者に、先に本方を内服させてから治療薬を投与する方法が行われていた⁸⁾。本方の適応となる嘔吐は、五苓散の水逆とは異なり、口渴は軽いが何度も少量ずつ吐き、吐いた後も悪心が残るのが特徴である⁹⁾。

細川は、比較的軽症の幽門痙攣型の嘔吐がみられる生後1～3ヵ月の乳児8例で、成人の1/5～1/6量の小半夏加茯苓湯を投与した。その結果、5例で有効、1例がやや有効、2例が無効であったと報告している¹⁰⁾。同様な使用法は、有持桂里が『校正方輿輶』に「乳幼児の吐乳で、よだれや痰が多くて出す者に良い」と記載している¹¹⁾。

抗がん剤や放射線療法の副作用に対しても用いられることがある。半夏瀉心湯が有名であるが、本方の使用例も報告されており、いくつかの症例報告がみられる^{12), 13)}。

水上は、精神的ストレスを有する心因性嘔吐の6例に対し本方を投与したところ、全例1～2週間で症状が軽快し、半年程度で廃薬に至ったと述べている¹⁴⁾。

2. 急性胃腸炎

本間棗軒は、食中毒の嘔吐が五苓散で収まらないときは小半夏加茯苓湯を用いると『内科秘録』に書いている¹⁵⁾。蓮村らは、ノロウィルスを否定できない老人ホームの入居者と職員の急性胃腸炎の集団感染に対し、小半夏加茯苓湯と経口補水塩を併用して対処した報告をしている。それによると症状の出現直後に本方を冷服し、経口補水塩を用いることにより、

21名の初期発症者以外に感染者が増加せず、治療で点滴を要した者もなく、1週間で収束できたと述べている¹⁶⁾。また、黄芩湯と本方を用いて入院患者と職員16例において投薬あり群と無し群を比較し、嘔吐・下痢時間が治療群で有意に短縮したとの報告もある¹⁷⁾。

大宜見は、外来受診をした悪心4例、腹痛1例に対し小半夏加茯苓湯を投与したところ、悪心の3例で30分以内に効果がみられたと述べている¹⁸⁾。

3. 悪阻

悪阻に対する本方の使用頻度は高い。持丸は、患者の心理的背景と小半夏加茯苓湯の効果を検討した結果、心理的要因が強い例では効果がみられなかったと報告している¹⁹⁾。石野は入院を要した悪阻の患者10例に対し点滴を行うと同時に2～4日の絶飲食を行い、その後小半夏加茯苓湯を内服させた。その結果、全例速やかに症状が軽快、消失し妊娠を継続できたとして述べている²⁰⁾。この他、松橋や唐澤らの報告もあるが、いずれも70～80%と高い有効性がみられている^{21, 22)}。水内らは薬剤を希望した20例に対し、エキス剤を少量の湯で溶解し、氷片を加えて悪心・嘔吐時に冷服とした。その結果、有効6例、やや有効7例、無効7例であり、65%に効果がみられた。嘔吐回数が3～4回/日の群では80% (4/5例) と高い有効性を示し、24歳以下の群では無効例が多かったと報告している²³⁾。この他、内服ができない状態では坐薬²⁴⁾や注腸²⁵⁾による投与方法も検討され、有効であったとの報告がある。

4. 耳鼻科・気管支疾患

蓄膿症に対する小半夏加茯苓湯の使用経験は極めて少ない。しかし、大塚は伝聞で著効した例があると述べており²⁶⁾、一部のメーカーでは保険適応にもなっている。近年、田原らは後鼻漏に対して本方を用いた報告をしている。それによると、後鼻漏を主訴とし嘔気を認めない15例の患者に対し本方を投与したところ、10例で効果がみられた。水様鼻汁であった8例は全例有効で、粘性鼻汁では2例のみ有効、5例が無効であった。また、有効例では振水音を認める者が多く、2例で認めなかった。無効例では4例で振水音がなく1例のみ有していた。結果として、粘稠鼻汁で振水音を認めない者に有効例はなかったと述べている。また、考察の中で、鼻粘膜が発生学的には消化管と同じ内胚葉由来であることが関連していると述べており興味深い²⁷⁾。さらに梁は、乳児の蓄痰音を伴う気管支炎や喘息がある3～12ヵ月の乳児4例に、本方と麻黄剤を併用したところ、数日から2週間で症状が軽快、もしくは消失したと述べている²⁸⁾。

5. その他

大塚敬節の治験に、肋膜炎で胸水貯留し利尿剤の醋酸カリウムで嘔気が酷くなり飲食ができず、起座呼吸になっていた患者に、止嘔を目的に本方を投与したところ、胸水もよくなっ

た症例がある⁹⁾。また、嘔気を有する舌痛症に用いた報告もある²⁹⁾。高橋は、吃逆に本方を用いた8例に対する検討を報告している。ヒネショウガ10～12g、半夏8～10g、茯苓12～15gで煎薬を作成し内服したが、6例が1回の内服で有効であった³⁰⁾。

この他、乗り物酔いにも用いることがあるが、松田は平素から胃腸の弱い者に本方を用いるとし、酔うと頭重、頭痛がする者は五苓散であるとその違いを述べている³¹⁾。

【参考文献】

- 1) 大塚敬節: 金匱要略講話, 創元社: 312-313, 2006
- 2) 松田邦夫: 『金匱要略講話』講義(20), 活, 46(6): 92-97, 2004
- 3) 山田光胤: 漢方処方 応用の実際, 南山堂: 245, 2012
- 4) 矢数道明: 臨床応用漢方処方解説, 創元社: 305-309, 1989
- 5) 阪本正夫: 小半夏加茯苓湯による失敗例, 漢方の臨床, 10(4): 200, 1963
- 6) 浅田宗伯: 勿誤藥室方函口訣, 近世漢方医学書集成, 96巻: 299-300, 1982
- 7) 和田東郭: 蕉窓雜話, 近世漢方医学書集成, 15巻: 344, 1979
- 8) 尾台格堂: 類聚方広義, 近世漢方医学書集成, 57巻: 278-279, 1980
- 9) 大塚敬節: 症候による漢方治療の実際, 南山堂: 277, 1972
- 10) 細川喜代治: 乳児の嘔吐に対する小半夏加茯苓湯の使用経験, 日東医誌, 13(3): 139-140, 1962
- 11) 有持桂里: 校正方輿輶, 近世漢方医学書集成, 85巻: 213, 1982
- 12) 坂倉康文 ほか: がん化学療法に伴う悪心・嘔吐に対し小半夏加茯苓湯が著効した1症例, 漢方医学, 35(3): 284-287, 2011
- 13) 竹重俊幸 ほか: 抗癌薬の使用に伴う悪心・嘔吐に対する小半夏加茯苓湯の有用性について, 第67回日本消化器外科学会抄録: WS-5-8, 2012
- 14) 水上勝義: 小半夏加茯苓湯が有効だった心因性嘔吐の6例, 漢方医学, 37(2): 108-111, 2013
- 15) 本間重軒: 内科秘録, 近世漢方医学書集成, 21巻: 277-278, 1977
- 16) 蓮村幸兌 ほか: 医師・薬剤師リレー治験録(31) 感染性胃腸炎集団発生に小半夏加茯苓湯と経口補水塩の利用, 漢方の臨床, 53(10): 1691-1695, 2006
- 17) 大岡均至: 当院におけるノロウイルスによる急性胃腸炎に対する黄芩湯、小半夏加茯苓湯の効果について, 第31回日本泌尿器科漢方研究会学術集会講演要旨集1, 2013
- 18) 大宜見義夫: 急性症状における漢方製剤の即効性の検討, 日東医誌, 46(2): 301-308, 1995
- 19) 持丸文雄: 妊娠悪阻に対する小半夏加茯苓湯の使用経験, 第4・5回癌血総合科学研究会講演記録集: 178-182, 1988
- 20) 石野信安: 妊娠悪阻漢方治験, 日東医誌, 13(1): 49-52, 1962
- 21) 松橋一雄 ほか: 妊娠初期の漢方療法 妊娠悪阻に対する小半夏加茯苓湯の応用, 産科と婦人科, 50(10): 1872-1874, 1983
- 22) 唐澤陽介: 妊娠悪阻と小半夏加茯苓湯, 産科と婦人科, 45(1): 126-130, 1978
- 23) 水内英充 ほか: つわりに対する小半夏加茯苓湯の使用経験, 産科と婦人科, 50(11): 2007-2010, 1983
- 24) 神山 洋 ほか: 妊娠悪阻に対する小半夏加茯苓湯坐薬の臨床効果, 東洋医学, 28(3): 31-33, 2000
- 25) 西谷雅史 ほか: 重症妊娠悪阻に対する漢方エキス剤の注腸療法の有用性について, 産婦人科漢方の歩み, (14): 71-76, 1997
- 26) 細野史郎, 多々良 素, 大塚敬節 ほか: 漢方診療座談会: 漢方の臨床, 5(9): 498-505, 1958
- 27) 田原英一 ほか: 後鼻漏における小半夏加茯苓湯の有効性, 日東医誌, 62(6): 718-721, 2011
- 28) 梁 哲成: 乳児の蓄痰音(ゴロゴロ音)を伴う気管支炎や喘息に、小半夏加茯苓湯と麻黄剤の併用が有効であった症例, 日小児東洋医学会誌, 21: 46-49, 2006
- 29) 岸奈治郎 ほか: 口腔内違和感を伴った舌痛症に小半夏加茯苓湯が著効した一例, 痛みと漢方, 20: 112-115, 2010
- 30) 高橋法昭: しゃっくり(吃逆)に小半夏加茯苓湯, 漢方の臨床, 46(4): 896-910, 1999
- 31) 松田邦夫: 治験録(71), 活, 31(4): 61-63, 1989